

（件名）中国の春節（旧正月）が無形文化遺産に登録

2024年12月4日、日本では日本酒や焼酎、泡盛などの「日本の伝統的醸造」がユネスコの無形文化遺産に登録されたことが大きなニュースになりましたが、同時に、中国の旧暦による年越し文化「春節」も登録されたことをご存じでしょうか。

● 春節とは

春節は旧暦の正月を意味し、中国ではこの春節が一年で最も重要な祝祭日として、新暦の正月（1月1日）よりも盛大に祝われます。

諸説ありますが、昔、中国では一年の終わりに災いをもたらす想像上の生き物「年」（ニエン）が現れ、人や家畜を食べるなどとして恐れられ、その「年」を追い払うために、「年」が嫌がる赤い飾り付けをしたり、大きな音が出る爆竹で追い払ったりしたとされています。

また、中国だけでなく、シンガポールやマレーシアの「チャイニーズ・イヤー」、ベトナムの「テト」、韓国の「ソルラル」のように、東アジアの国々で旧正月が祝日として定められています。

2025年の中国の春節は1月29日で、前日の1月28日から2月3日までの7連休となる学校や企業が多いようです。

● 春節の過ごし方

日本では、春節は中国から大勢の観光客が訪れるイメージが強いですが、実際には帰省して家族と過ごす人が多く、その帰省の様子は民族大移動と呼ばれています。公共交通機関は混雑し、高速道路も渋滞で全く進まなくなることもよくあるようです。

春節の祝い方の代表としては、爆竹や花火、赤い飾り付けや赤い服を着る、お年玉（「紅包」という）を贈る、縁起がよいとされる食べ物を食べる（魚・餃子・春巻き・長寿麺・お餅）などがあります。

※爆竹について、近年は大気汚染や安全面での配慮から、使用を禁止する地域が増えてきています。



昨年（2023年）の春節初日：高速鉄路の駅の人混み（上海）

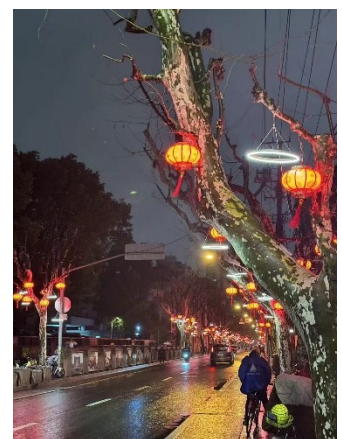
● 無形文化遺産登録後の展望

無形文化遺産のほかに、ユネスコに登録されるものは3つあります。

- （1）世界遺産：自然遺産、文化遺産、複合遺産。有形の不動産
- （2）無形文化遺産：文化や伝統、技術など無形で伝承されてきたもの
- （3）世界記憶遺産：記録や文書、楽譜、絵画、映画などの記録文書

旅行先を検討する際に、世界遺産の観光名所を目当てに行き先を決める方や、無形文化遺産のように、それまで深く知らなかった文化体験を求める方が多いようです。

そのため、今後、登録されたばかりの日本の伝統的醸造や中国の春節関連の伝統文化・行事が国内外の観光客から注目されることが期待されます。



赤い飾り付けをされる街路樹（上海）